

## 平成23年度事業計画ならびに収支予算の件

### 平成23年度事業計画

理事・監事・評議員の皆様のご支援・ご理解・ご協力のお蔭をもちまして、来る4月1日に、公益財団法人への移行登記が果たせる見込みです。

公益財団法人への移行という機会を、『民による公益の増大』の観点から当財団の事業目的・事業内容等のあり方を抜本的に見直すための絶好の機会と捉えて、大学生を取り巻く社会の変化等を総合的に勘案した上で、財団創設の志を受け継ぎつつも、電通育英会の社会的な使命や活動方針を再検討いたしました。

#### <公益財団法人への移行後の電通育英会の事業目的の再確認>

公益財団法人電通育英会は、人格・学業成績ともに優秀にもかかわらず経済的な理由で、大学・大学院進学を躊躇うような人材を奨学生として予約採用し、経済的な支援及びキャリア形成支援等により、社会経済文化の発展に資する次世代人材の育英を目的とする。

#### <公益財団法人への移行後の事業目的達成の手段>

- 1、大学生／大学院生への奨学金の支給事業
- 2、奨学金支給の付帯事業として、奨学生対象のセミナー等の実施
- 3、大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供
- 4、大学生等の人材育成に取り組んでいる非営利組織への資金助成

平成23年度の事業計画を策定するに当たって、当財団指定大学の大学生で社会科学系や人間科学系、情報学ならびに芸術を専攻する次世代人材を対象を絞り込んだ『大学生給付(一般・芸術系)奨学金』(高校予約)と『大学院給付奨学金』(学部予約及び留学生)に、限られた資源を集中する方向で、活動計画をご提案いたしますので、ご審議をお願いいたします。

## 1-1. 大学生への奨学金支給事業

### (1) 大学生への奨学金貸与

平成 22 年度から貸与奨学生の募集・採用を中止しました。

ただし在学中の貸与奨学生全員が修了するまでは、貸与事業及び返還免除奨学金事業、留学奨励金事業を継続します。

23 年度支出予算：(奨学金貸与支出) 84,960,000 円 @48 万×177 名  
(22 年度支出予算) 133,440,000 円 @48 万×278 名  
(22 年度支出見込み：130,280,000 円)

### (2) 一般大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

平成 23 年度の大学入学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 22 年 6 月に行ない、平成 22 年 7 月の選考小委員会で計 50 名が内定しました。当該内定者のうち、平成 23 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金を給付します。

給付者総数は、22 年度 88 名、23 年度 138 名を予定。

なお、平成 24 年度の大学入学予定者に対して、平成 23 年も下記の通り選考作業を行います。

①給付対象：当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で、在学学校長の推薦があった者。成績優秀者かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定大学への入学を条件とする。理工学系、医薬系を除く。

②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。

③給付者数：年間 50 名前後。

④採用方法：奨学金給付者は、各公立高校(全国約 100 校)から各 1 名選ばれた候補者の中から、奨学生選考委員会での書類選考後、選考委員による面接選考を経て理事長が決定する。なお 24 年度大学給付奨学生については、5 月に募集開始、9 月に予約採用内定の予定。

⑤初年度指定大学不合格の場合、次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)。

23 年度支出予算：(一般大学生給付奨学金) 82,800,000 円 @60 万円×138 名  
(22 年度支出予算) 60,000,000 円 @60 万円×100 名  
(22 年度支出見込み：52,800,000 円) @60 万円×88 名

### (3) 芸術系大学生への奨学金給付（高校時予約採用）

当財団の特色を出すための施策。平成 23 年度の芸術系大学・学部入学予定者に対して、初めての募集を平成 22 年度に行ない、9 名を採用内定しました。平成 23 年度当財団指定の大学・学部に入学者に対して奨学金を支給します。

なお、平成 24 年度の芸術系の大学・学部入学予定者に対して、平成 23 年も下記の通り選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高校の 3 年生で、在学学校長の推薦があった者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の芸術系の大学・学部への入学を条件とする。
- ②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。
- ③給付者数：年間 10 名を限度とする。給付者総数（上限）は 23 年度 10 名、24 年度 20 名、25 年度 30 名、26 年以降 40 名以内を予定している。
- ④採用方法：奨学金給付者は、各公立高校から各 1 名選ばれた候補者の中から、奨学生選考委員会での書類選考後、選考委員による面接選考を経て、理事長が決定する。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）。  
23 年度支出予算：（芸術系大学生給付奨学金） 5,400,000 円 @60 万円×9 名  
\* 合格率のデータがないため、初年度は 9 名全員合格と見込んだ。

### (4) 留学奨励金の給付

平成 23 年度の留学奨励金給付者を次のとおり選考します。

- ①給付対象：当財団の貸与奨学生で海外留学が内定している者
- ②給付金：100 万円を限度に渡航費・学校納付金・寮費を支給
- ③採用人員：数名（上限 10 名）
- ④募集時期：平成 23 年 6 月及び 11 月
- ⑤採用方法：貸与奨学生を対象に募集し、奨学生選考委員会での書類選考、選考委員による面接選考を経て、理事長が決定する。

23 年度支出予算：（留学奨励金関連費） 2,000,000 円  
（22 年度支出予算） 2,660,000 円  
（22 年度支出見込み：2,220,000 円）

## (5) 成績優秀による奨学金返還免除

電通育英会奨学生（卒業予定者）の中から、成績優秀者およびその他スポーツ・文化領域等において優秀な成績を収めた者を選び、奨学金の返還免除の特典を与えます。

①給付対象：卒業予定の当育英会奨学生で成績優秀者等、但し2年間以上奨学金の貸与を受けた者

②免除金額：貸与した奨学金全額（卒業時に返還免除）

③採用人員：20名程度

④採用方法：成績優秀による奨学金返還免除者は、選考委員会で書類審査をした後、選考委員による面接を経て理事長が決定する。

23年度支出予算：（返還免除費用） 30,000,000円 \*固定資産減少分

(22年度予算支出) 30,000,000円

(22年度支出見込み：30,720,000円)

## 1-2 大学院生への奨学金給付事業

### (1) 大学院生（学部予約）への奨学金給付

平成23年度の大学院進学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成22年度に行ない、選考小委員会で計25名が採用内定しました。当該内定者の内、平成23年4月に当財団指定の大学院に入学した者に対し、大学院修士課程2年間、月額8万円の奨学金を給付します。

なお、平成24年度の大学院進学予定者に対して、平成23年も下記の通り選考作業を行います。

- ①給付対象：
- ・当財団が指定する大学院（修士課程）に進学予定の学部生で、在学学校長の推薦があった者
  - ・原則として社会科学系・人間科学系・情報科学系を専攻する者
  - ・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者

②給付金額・期間：月額80,000円、給付期間は2年以内とする

③採用人員：27名以内

給付対象人数は大学院2年生24名を加え49名となる予定。

23年度支出予算：（大学院生給付奨学金） 47,040,000円 @96万円×49名

(22年度支出予算) 48,000,000円 @96万円×50名

(22年度支出見込み：45,120,000円) @96万円×47名

## (2) 大学院留学生（現地採用）への奨学金給付

平成 22 年度から、現地採用方式に切り替えました。中国については、中国教育部の協力を得て『中国建設高水準大学国家派遣留学生事業』の採用者の中から、当財団の応募条件に合致する博士課程進学予定者の推薦を受けます。韓国については、ソウル大学校及び延世大学校と協約を締結し、当財団の応募条件に合致する博士課程進学予定者の推薦を受けます。当財団の選考委員会を経て理事長が決定します。

なお、平成 24 年度の大学院進学予定者に対して、平成 23 年も下記の通り選考作業を行います。

- ①給付対象 : ・当財団が指定する大学院（修士・博士課程）に在籍する者  
・原則として社会・人文科学を専攻する者  
・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者  
・日本語によるコミュニケーションに支障のない者
- ②給付金額・期間 : 月額 160,000 円、給付期間は 3 年以内とする
- ③採用人員 : 7 名程度（中国人留学生 5 名、韓国人留学生 2 名）
- ④採用方法 : 中国教育部ないし韓国 2 大学から推薦された候補者の中から、選考委員会の選考を経て理事長が決定する。
- ⑤採用時期 : 中国・韓国とも、毎年度 4 月ないし 10 月からの採用。

23 年度支出予算 : (留学生給付奨学金) 16,320,000 円 192 万円×5 名  
\*96 万円×7 名

(22 年度支出予算) 30,960,000 円

(22 年度支出見込み : 15,720,000 円)

\* 22 年度までは、大学院給付留学奨学金（在学採用）を含む

\* 23 年度は、中国 5 名・韓国 2 名とも 10 月採用予定

<参考>今後4年間の奨学生の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
大学貸与奨学生	継続 3年と4年生以上 177名	継続 4年生以上だけ 78名	継続 医薬系5年6年生 23名	最終年 医薬系6年生 11名だけ
大学貸与奨学生対象の 返還免除	継続 修了予定 99名 →返還免除20名	縮小継続 修了予定 55名 →返還免除10名	縮小継続 修了予定 12名 →返還免除数名	最終年 修了予定 11名 →返還免除数名
大学貸与奨学生対象の 留学奨励金	継続 3年生と4年生 若干名	最終年 4年生だけ 若干名		
大学給付奨学生（一般） （高校予約）	3年目 1年生～3年生 138名	4年目 1年生～4年生 188名	5年目 1年生～4年生 188名	6年目 1年生～4年生 200名
大学給付奨学生（芸術） （高校予約）	1年目 1年生だけ 10名以内	2年目 1年生と2年生 20名以内	3年目 1年生～3年生 30名以内	4年目 1年生～4年生 40名以内
大学院給付奨学生 （学部予約）	6年目 1年生と2年生 50名程度	7年目 1年生と2年生 50名程度	8年目 1年生と2年生 50名程度	9年目 1年生と2年生 50名程度
大学院給付留学奨学生 （現地予約）	2年目 中国10名 韓国2名 計12名	3年目 中国15名 韓国4名 計19名	4年目 中国15名 韓国6名 計21名	5年目 中国15名 韓国6名 計21名

## 2. 奨学生対象のセミナー等の実施

### (1) 大学奨学生（貸与及び給付）に対する「奨学生の集い」の実施

奨学生の研修及び奨学生同士或いは財団役員・選考委員・事務局員との交流を目的とする「奨学生の集い」を、東京・大阪の2地区で開催します。開催時期は11月上旬を予定。

「奨学生の集い」では大学生の社会的視野を広げることがを目的に、各界で活躍する講師を招き講演会を開いています。平成22年度の講師は、マスコミで活躍している和田秀樹氏（大阪会場）と、茂木健一郎氏（東京会場）。

平成23年度も、大学生のキャリア形成に直接的に参考となるテーマと講師を選びます。

23年度支出予算：（奨学生の集い関連費用）6,360,000円 \*奨学生の交通費含む  
(22年度支出予算) 7,400,000円  
(22年度支出見込み：5,912,713円)

### (2) 大学給付奨学生に対するセミナーの実施

大学給付奨学生に対して年1回の研修セミナーへの出席を義務付けています。セミナーは、汎用的スキルの涵養や課題解決力の付与などを目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、次世代人材を育成する一助とします。9月に1泊2日の合宿形態で実施します。

1年生対象：ロジカルコミュニケーション研修

2年生対象：ロジカルシンキング研修

3年生対象：自己分析とキャリアデザイン研修

23年度支出予算：（大学生セミナー関連費）8,230,000円 \*奨学生の交通費含む  
(22年度支出予算) 5,200,000円  
(22年度支出見込み：4,739,000円)

### (3) 大学給付奨学生に対する新入奨学生歓迎会の実施<新規事業>

23年度採用の大学給付奨学生に対して、4月に新入奨学生歓迎会を実施します。内容は奨学生へのオリエン、ゲストスピーカーによる「大学4年間の過ごし方」（仮題）講演会と、懇親・交流会を行い、次世代人材を育成する一助とします。

23年度支出予算：（新入奨学生歓迎会関連費）1,900,000円 \*奨学生の交通費含む

### (4) 大学院奨学生に対するセミナーの実施

大学院給付奨学生および大学院給付留学奨学生に対して、年2回のセミナーへの出席を義務付けています。セミナーは、奨学生の研究発表、各界講師による講演会、懇親会を内容とし、年2回実施します。22年度は山田ズーニー氏（夏期）、労働政策研究研修機構の下村英雄氏（冬期）を講師としました。夏期セミナーは1泊2日の合宿形態で実施します。

23 年度支出予算： (大学院生セミナー関連費) 6,815,000 円 \*奨学生の交通費含む  
 (22 年度支出予算) 7,000,000 円  
 (22 年度支出見込み：6,673,000 円)

#### (5) 修了生懇親会

大学貸与奨学生の修了生の内「成績優秀による返還免除者」及び大学院修了生に対して、今後の活躍を祈念して、当財団の選考委員、主要奨学財団、大学関係者など来賓出席のもと、「修了生懇親会」を3月に東京品川で開催します。

なお、大学院修了生による修士論文の要約をまとめた「研究報告集」を出席者に配布します。

23 年度支出予算： (修了生懇親会関連費) 3,435,000 円 \*修了生の交通費含む  
 (22 年度支出予算) 3,100,000 円  
 (22 年度支出見込み： 3,535,000 円)

<参考> 奨学金事業別の平成 23 年度予算額 合計：270,745,000 円

	大学生給付	大学院給付	留学生給付	大学生貸与
対象人数想定	147 名	49 名	12 名	177 名
奨学金支給額	88,200,000	47,040,000	16,320,000	84,960,000
募集関連費	560,000	400,000		
選考関連費	2,830,000	870,000	1,300,000	
採用関連費	125,000		1,400,000	
セミナー関連費 *1	8,230,000	5,993,000	822,000	
奨学生の集い *2	3,967,000			2,393,000
修了・入学祝 *3	1,900,000	2,435,000		1,000,000
小計	105,812,000 @720,000	56,738,000 @1,158,000	19,842,000 @1,654,000	88,353,000 @499,000

\* 1 大学院生対象のセミナー費用は、大学院生と留学生の参加人数で配分

\* 2 奨学生の集い関連費用は、給付奨学生と貸与奨学生の参加人数で配分

\* 3 修了生懇親会関連費用は、給付大学院生と貸与大学生の参加人数等で配分

### 3. 大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供

#### (1) 「IKUEI NEWS」の発行

平成 22 年度は、21 年度から引き続きシリーズ特集テーマを「大学生が身につけるべき力」とし、4 月号「問題解決力」7 月号「国際力」を特集しました。10 月号では、22 年 8 月に京都大学と共同開催した『大学生研究フォーラム』を特集し、1 月号からは、特集テーマを「自分を育てる学生生活の過ごし方」として、新たなシリーズをスタートさせました。いずれのテーマについても、キャリア教育の研究者や大学教職員へのインタビューと大学生の意見や感想を取材しました。

23 年度も、大学生のキャリア形成や大学生活に絞って、現場情報を大学生及び大学教職員に対し提供していきます。又「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」、「アメリカン・キャンパス・ライフ」等の連載企画は継続する予定です。

主要読者層は貸与/給付中の奨学生、奨学金返還中の OBOG、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、奨学財団、全国主要図書館、全国の新聞社であり、新たな大学・高校関係者等、配布先を増やしていきます。部数は、「大学生研究フォーラム」参加者から毎年数十名の定期送付希望者があるなど増加傾向で、23 年度は各号約 4,000 部を見込みます。

23 年度支出予算：（機関誌関連費） 23,700,000 円  
（22 年度支出予算） 24,000,000 円  
（22 年度支出見込み：23,970,000 円）

#### (2) 調査研究

大学生の奨学状況等大学生活の実態及びキャリア意識等を把握する目的で、平成 19 年に初めて実施した大学生意識調査は、3 年に 1 度の調査で、第二回大学生意識調査を平成 22 年に行ないました。調査レポートは、22 年度末に出来上がりますので、8 月の大学生研究フォーラムで報告する他、ホームページでデータを公開し、全国の大学生研究者の幅広い活用を促進します。

23 年度は、調査実施の予定はなく、調査データの分析レポートの作成などに取組みます。

23 年度支出予算：（調査関連費） 2,500,000 円  
（22 年度支出予算） 10,500,000 円  
（22 年度支出見込み：8,300,000 円）

### (3) 大学生研究フォーラムの開催

大学生意識調査の結果など、大学生研究の成果を情報発信し、また大学生研究の課題発見のための場として、過去3年間、京都大学・高等教育研究開発推進センターとの共催で開催してまいりました。23年度（第4回）からは、京都大学に加えて東京大学・大学総合教育研究センターとの3者共催で、8月に京都大学にて、教育学・心理学・青年若者論・労務研究等の教員、研究者及び学生を集めたシンポジウムを開催します。シンポジウムは、キャリア教育のあり方についての特別講演、上記大学生のキャリア意識調査結果の報告、パネルディスカッション、情報交換会で構成します。

23年度支出予算：（フォーラム関連費）8,000,000円  
（22年度支出予算） 8,000,000円  
（22年度支出見込み：6,000,000円）

#### 4. 【公益財団法人への移行後の新規事業】

##### 大学生等の人材育成に取り組んでいる非営利組織への資金助成<新規事業>

大学生が実社会を体験することは、人間力の育成、キャリア形成、大学での学びの意義の発見など、さまざまな面で大きな意義があります。

学生の人材育成を目的として、インターンシップ、ボランティア活動、その他セミナー活動などを行っている大学内組織や民間 NPO 団体を主な対象として、活動計画を広く募集し、専門家によって構成される選考委員会にて選考を行った上で、確実に成果が出そうな人材育成活動に対する資金助成事業を、平成 23 年度から新規に導入します。学生の社会参加やセミナー参加による人材育成を側面から支援します。

##### <大学内組織、NPO による大学生等のキャリア形成支援活動（例）>

- ・ 仲間との協働、社会貢献活動のやりがいを実感させるようなボランティア活動を支援する
- ・ インターンシップの斡旋や、職業を体験する機会の提供などを行う活動を支援する
- ・ キャリアカウンセリングなど、キャリア選択に当たっての意思決定の促進を行う活動を支援する
- ・ 自己理解の促進を目的とした適性診断テスト、就職関連セミナーなどの活動を支援する

##### <活動計画>

募 集: 毎年12月に、全国の若者対象の人材育成活動、キャリア支援活動を行う非営利組織に対して、募集要項を送付。同時にホームページにも募集要項を掲載。2 月末が応募締切。

選 考: 3 月に、若者・キャリア・NPO の専門家 6 名程度で構成される選考委員会にて書類審査を行い、その後活動計画のプレゼンを受けたのち助成非営利組織を 20 団体程度決定する。

##### <選考基準>

応募団体の過去の活動実績、計画内容及び実行力などから、応募された人材育成事業計画の活動成果への期待度の大きさなど、総合的に判断する。

##### <初年度=23 年度の活動について>

当財団にとっての新規事業であるため、相応な準備期間が必要になります。スタート初年度の 23 年度をテストランと位置づけ、早稲田大学 WAVOC、明治学院大学ボランティアセンターといった定評のある大学内組織とのパイロット的な実施を想定。予算は 600 万円程度。本格的な事業開始は 24 年度以降を予定しています。(毎年度 20 団体程度に 100 万円/1 団体・上限額の資金助成)  
成果報告: 年度末に、活動成果報告書を提出させる。さらに必要に応じて、活動実績・成果についての報告をプレゼンしてもらう。

23 年度支出予算:(人材育成事業助成金)6,000,000 円 \* 収支予算書上は予備費として計上

## 5. 奨学金の返還（収入予算）

23 年度も奨学金管理システムの改善を図り、事務処理の迅速化を図ると同時に、回収見込の難しい案件に関しては、貸倒引当基準を策定し、貸倒引当金の充当も行っていきます。

(23 年度収入予算) 114,000,000 円

(22 年度収入予算) 116,000,000 円

(22 年度収入見込み: 140,000,000 円)